

岡山から救援へ次々

県が合同会議 防災ヘリ「きび」も

「東北地方太平洋沖地震」の発生から一夜明けた12日、岡山県は、午前9時から関係部局長ら16人が出席して合同会議を県庁で開き、対応状況を確認。石井正弘知事は物的、

人的両面で可能な限り支援する方針を強調した。

岡山空港（岡山市北区日応寺）で待機していた消防防災ヘリ「きび」は午前6時54分、

やまDMAは、県内5病院に16チーム配備され、昨年4月の結成から初めて災害現場に出動。

埼玉県本田ヘリポートへ出発。09年10月の本格運航後、地震対応は初めて。

川崎医科大学付属病院、津山中央病院、岡山済生会総合病院、倉敷中央病院の各1チームは、いわて花巻空港（岩手県）へ向かった。

災害派遣医療チーム「おか

医師2人、看護師1人、調整員1人の計4人。伊丹空港（大阪府豊中市）から飛行機で新潟県に入り、陸路で山形県南陽市を目指す。14日ごろまで滞在し、主に被災状況の情報収集、避難した被災者の救護などを行う。

被災地に

医療チーム

AMDAMも派遣

NPO法人AMDAM（岡山市北区伊福町3丁目）は12日、

第1次医療チームを被災地に派遣した。

埼玉に向かった消防防災ヘリ「きび」（12日午前6時54分、岡山空港）

派遣した。



埼玉に向かった消防防災ヘリ「きび」（12日午前6時54分、岡山空港）